

聖書宣教会通信

東京都羽村市羽西 2-9-3 Tel:042(554)1710 Fax:042(554)5562 www.bibleseminary.jp 振替 00150-6-34971

巻頭言

「みことばを土台とした賛美歌の必要のために」

(聖書神学舎講師) 矢吹 綾子

「キリストのことばを、あなたがたのうちに豊かに住ませ、知恵を尽くして互いに教え、互いに戒め、詩と賛美と霊の歌とにより、感謝にあふれて心から神に向かって歌いなさい。」(コロサイ人への手紙 3章 16節)

2017年はルターの宗教改革から500年目となり、それを記念した様々なイベントを耳にするようになりました。私が属する宇都宮聖書バプテスト教会では、今までに異文化の中でのクリスチャンとの交わりを体験する旅として、有志で、フランスとイギリス、韓国、ベトナムを訪れました。そして来年、「ルター宗教改革500周年」の記念の年に、ルターゆかりの地を訪ねるドイツ旅行を企画しようと考えています。企画するにあたり、ルターに関する本を何冊か読みましたが、ローマ・カトリック教会が政治権力と結びつき、聖職者の世俗化により墮落の一途をたどる中、神様が宗教改革者たちを立て、聖書信仰に立ち返らせたのだということを痛感しました。また、ルターが聖書をドイツ語に翻訳するわずか80年ほど前に、グーテンベルクによって活版印刷術が発明されたという神様のタイムリーな御業にも感動しました。

ルターは、聖書のことばを中心とした礼拝改革を行いました。その中で同時に、賛美改革が行われました。ローマ・カトリック教会の礼拝の中で、会衆は自ら祈ることも、賛美をすることもできませんでした。ルターは、キリストの贖いのゆえに信仰者は神の前に平等であり、会衆は自ら祈り、賛美をすることができるとし、かつて歌われていた会衆賛美を取り戻したのです。賛美歌は説教と両輪をなし、ルターの礼拝改革を支えたと言われています。

ルターは、「音楽は神学に近く、音符がことばを生き生きとさせる。」と語り、賛美歌に音による説教の役割を与えました。神様から音楽の賜物も与えられていたルターは、自ら賛美歌を作り、ラテン語の賛歌をドイツ語に編曲したり、聖書のことばや教えを、歌うことによって心に刻むことができるよ

うにするための釈義詩篇歌や教理問答歌なども作りました。

当時、文字を読むことができなかつたと思われる多くの会衆にとって、賛美歌は今以上に信仰生活の助けとなったと思われまます。このようにして作られた賛美歌は、コラールと呼ばれ、ドイツ・プロテスタント教会音楽の土台となりました。

ルターの宗教改革に始まった聖書のことばを伝える教会音楽の使命を日本の教会に教える働きのために生涯を献げられた岳藤豪希先生は、「もし『私はこう思う』とか、『こう感じた』というような、主観的な面ばかりが先行しますと、みことばから教えられ、戒められるという面が排除されてしまいます。そうすると、人々の感情を煽ったり、雰囲気盛り上げたりという面だけが強調され、しまいには教会音楽に肉的な楽しみや満足を求める、というようなことにもなりかねません。礼拝のための音楽は、それによって、どれだけみことばが人々のうちに宿るかという点から考えなければなりません」と記しています。そして先生は、みことばに立ち、ことばのアクセントや語感と音が合った賛美歌を数多く作られました。その中には、聖書宣教会の研修生たちを集めて、みことばから歌詞を作る指導をし、先生が作曲した賛美歌もあります。それらの賛美歌は、歌われているみことばが心に響き、歌う人も聴く人もとても教えられます。

神様が、聖書宣教会に教会音楽の学び舎を設けてくださっていることを感謝します。そして、宗教改革後に、牧師と教会音楽家によってコラールが作られたように、キリストのことばを豊かに住ませた日本語の賛美歌が、聖書宣教会で神学と教会音楽とともに学んだ働き人たちによって作られることを期待しています。



働きの現場から

届けたい希望の光

日本同盟基督教団 東北宣教プロジェクト 現地リーダー 齋藤 満

『暗やみの中にすわっていた民は偉大な光を見…』

マタイの福音書 4章 16節

頌主

私たち家族が岩手県三陸沿岸に来て 1 年 8 ヶ月が経とうとしている。正直な感想は「あつと言う間」だった。みぞれ舞う中、岩手県に初めて足を踏み入れた日の事を、昨日の事のように思い出す。

神学校の最終年度、属している教団から「岩手県の被災地で、支援活動と伝道に従事してくれないか」と言われた。正直、寝耳に水であった。以前働いていた国際 NGO で、支援と宣教にまつわる闇とジレンマを嫌という程見せられた私は、再びその世界に引き戻されるような気がしたのだ。しかし、これが妻と続けて来た祈りの答えだという確信を、程なく二人同時に与えられた。主の召しを確信し、行く事に決めた。

現在の岩手県被災地は、未だ復興中としかいえない。継続していく土地の造成。これから建ち始める商店街や戸建て。5 年半が

経ってニュースで被災地が扱われる回数は減少し、現地を訪れる支援団体も桁が変わるほど少なくなった。しかし、現地の状況は未だ描いた完成からは程遠い。人の復興という観点では、その被害の全容も対応策も、未だ誰も把握できていないのではないかとさえ思う。そして今、仮設での生活がある程度安定した故に、人々の間に震災前から存在した問題が再び頭をもたげて来ている。しかもより複雑化して。過疎化、少子高齢化、虐待、離婚、賭博、貧困、いじめ。このような問題は、震災の前から存在し、震災によって顕在化されつつある。結局それは人の内にある、罪の問題なのだ。

その罪の闇に届いていく事。それこそが今、教会に必要とされている復興支援ではなかろうか。町だけでなく、人も新しく創り出される事を必要としている。そしてそのためには唯一、人を変える事ができる「みことば」だけが希望の光なのである。この地で人々と寄り添い、共に生きていく中で、この希望の光を届けていく事。それが私の仕事である。

留学を通して

日本同盟基督教団 教師 田村 将

「けれどもあなたは、学んで確信したところにとどまっていなさい。」

テモテへの手紙第二 3 章 14 節

本質探求。これは、留学中に会った当時求道中だった兄弟が大切にしていたことばです。この方は大学教授という職業柄、学問とは何か、ということを決えず考えておられました。そして、それは「学んで問いかけること」であり、物事の本質を知りたいと願うなら、広い視野で深く学ばねばならないと言っておられました。

私は 2012 年から 4 年間、米国に留学する機会を与えられ、前半の 2 年間をゴードン・コンウェル神学校で、後半の 2 年間をブランドイス大学にて過ごしました。その中で多くの貴重な学びの機会を頂きましたが、特に後半の 2 年間が最も自分にとって印象に残り、かつ教訓を得る期間でした。

そこで痛感させられたのは、信仰なき学問の不毛さと厳しさでした。初めて直接接触される批評的な学問、それに質・量共に圧倒される学びの毎日は信仰の戦いの連続でした。そこに福音的聖書理解の入る余地は全くなく、私の携わっているアッシリア学の

研究成果も聖書の確かさを肯定するよりも否定するために専ら用いられました。翻って福音派では、自身の存在意義を示すためか批評的な学問に擦り寄るようにして近づく状況が見られました。その現実には落胆し疲れを覚えることがしばしばでした。

しかし、そのような中で不思議と聖書のみことばが生きて働く姿を目の当たりにしてきました。上述の兄弟は聖書を学び、問い続け、救いを求め続けられました。そしてご自身の帰国間際のある時に、イエス・キリストの福音を本当に自分の事として知り、それを信じ、全く新しく造り変えられる経験をされ、正にみことばの本質、精髓に至ったのです。

この留学を通して、本当の意味でみことばを学ぶとはどういうことなのかを改めて教えられたように思います。批評的な学問は高度なものですが、真に問われていることは、何を目的として学ぶのか、問い続けるのかということだだと思います。永遠のいのちに至る本質を探求することこそ、私たちにとって真に必要なとされている学びであると思われています。

「神の書物」

図書館長 津村俊夫

聖書翻訳に関わって早くも十数年になりますが、間もなく「聖書新改訳2017」の翻訳終了を迎え、編集（再校・念校）の段階に入ろうとしています。そのような中、聖書全体を突っ切っているいくつかのテーマについて考えさせられています。

それは、いのちの書であった。死んだ人々は、これらの書物に書きしるされているところから従って、自分の行いに応じてさばかれた。

(以上、新改訳第三版)

(他に、黙3:5, 13:8, 17:8, 20:15, 21:27; またピリ4:3, 詩69:28)

- ① 神様も「書物」を書いておられること。
出エ 32:33 (32節参照)
すると主はモーセに仰せられた。「わたしに罪を犯した者はだれであれ、わたしの書物から消し去ろう。」
- ② 私に関するすべての出来事は神の「書物」に記録されていること。
詩篇 139:16
あなたの目は胎児の私を見られ、あなたの書物にすべてが、書きしるされました。
私のために作られた日々が、しかも、その一日もないうちに。
- ③ 神の都に入れるのは、子羊の「いのちの書」に記されている者だけ。
黙 20:12
また私は、死んだ人々が、大きい者も、小さい者も御座の前に立っているのを見た。そして、数々の書物が開かれた。また、別の一つの書物も開かれたが、

私たちが『いのちの書』に名を記されるのは、子羊である、御子イエスキリストによる贖いの故であり、ただ恵みにより、信仰によるのであることを、いま再び、確認させられています。

* * * * *

本の中の「本」である「聖書」が改訂されてやがて出版されようとしています。私たちにあって「書物」とか「本」とは何でしょうか。本は持っているだけで読まなければ何にもなりません、本であればどんな本でも良いわけではありません。「良い本を読まなくなると、どうでもよい本を読むようになる」という諺をよく考え、聖書こそ「良い本」であることを肝に銘じておきたいと思います。

《近況と祈りの課題》

- 「教会音楽ミニ講習会」が祝されたことを感謝します。9月の宇都宮聖書バプテスト教会で開催したミニ講習会では23名、11月の衣笠中央キリスト教会で開催したミニ講習会では46名が、それぞれ受講されました。教会音楽奉仕者だけではありません。会衆も牧師も出席して、礼拝の賛美についての学びをもにしました。受講者が持ち帰ってくださった成果が早速教会の礼拝と賛美に反映されているあかしも届いており、主をあがめています。
- 10月1日の新年度要覧発行以来、来会者、見学者、オープンデイの来会や面談等で、入会志願者の方々と出会っています。救いのくすしみわざと召しの不思議を主に感謝し、一人一人に主のみこころがなることを祈っています。
- 新年度から給付奨学金を拡充できることを主に感謝しています。一般会計の状況は大変厳しいのですが、奨学金指定献金が届けられており、申請だけで給付を受けられる奨学金を追加しました。実質的な学費低減が研修生活の助けとなることを信じます。
- 健康上の必要のために続けて主におとりなしてください。遠藤かおる先生の上に主の顧みがいよいよ豊かであるように。職員の中川姉が一連の治療を無事終了し、経過観察中です。家族寮では二人の夫人たちが出産準備中です。研修生の日常のためにも。
- 学舎が、主の前に正しくその責任をわきまえ、遂行して行けるように。またそのための必要のすべてを主が満たしてくださるように。人材面での必要がいつも主によって整えられてきたことを感謝しています。これからもそうであることを信じ、主の導きを待ち望みます。経済の面でもいつも主が主の民を動かして供給していただきました。これからも主を仰ぎ、主を待ちます。特にこれらの点で、ただ主をおそれ、主に信頼して歩めるようにお祈りください。

編集後記

「何とかして、幾人かでも」と題して語られた丁寧にして熱い説教は、祈りの日に主がお備えくださった特別な恵みでした。世界中が見えない力に揺さぶられ、振り回されているかのような時代にあって、主を仰ぎ

見て、主への愛と信頼と聴従をなお深めさせていただきたいと思います。献身者が起こされ、伝道者が加えられ、主の御思いの前進に用いいただけますように。(A)